

活動報告



『Childline Annual Report 2023』ができました！

毎年刊行している報告書『Childline Annual Report』を今年も発刊しました。本号では、「受けとめた声のデータのほか、チャイルドラインからの提言として、「子どもの声を聴く」と「小中高生が生きたいと思う社会であるために」の2つの特集を組み、子どもを自殺に追い込まないためにおとなの私たちができていることを考えました。ぜひ多くの方に読んでいただけたらと思います。冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。Web上でもご覧いただけます。 ※競輪の補助を受けて作成しました。



PDF

チャイルドライン全国研修 2023

「子どものSOSに気づいていますか？」
～すべての子どもの聴かれる権利が保障される社会に～

◆日時 2023年12月9日(土) 13:00～17:30
◆場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

◆登壇
(1) 基調講演＝甲斐田万智子さん
(国際子ども権利センター 代表理事)
(2) パネルディスカッション
甲斐田万智子さん(同上)
今村久美さん(NPO法人カタリバ 代表理事)
内田良さん(名古屋大学教育学部 教授)
竹村浩(NPOチャイルドライン支援センター 代表理事)
◆料金 一般3,000円/チャイルドライン関係者1,000円
◆申込 参加申込や詳細の問合せは事務局まで。

thank
youご支援・ご協力
ありがとうございます

子どもたちの生きやすい社会を目指し活動するチャイルドラインへのご支援をこれからもよろしくお願いいたします。

●2023年1月～8月のご寄付総額
12,437,632円

ゆうちょ
銀行

振替口座 00120-5-425245
(019支店 当座0425245)
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除を受けることができます。
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp/>)

Yahoo!
ネット
募金

募金サイト
<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5452001>

※Yahoo!ネット募金とは、さまざまな社会課題の解決を目的にヤフー株式会社が運営する寄付のポータルサイトです。クレジットカードやTポイントによる寄付に対応しています。



チャイルドラインの仲間が増えました！

長野県安曇野市を拠点とした「チャイルドライン中信(仮)」と、熊本県熊本市中央区を拠点とした「チャイルドライン熊本」が開設準備団体として、チャイルドライン実施団体の仲間に加わりました。全国の実施団体については、チャイルドライン支援センターのホームページをご覧ください。
<https://childline.or.jp/supporter/volunteer/party>

フリーダイヤル、オンラインチャット、
つぶやく、ネットでんわ **実績報告**



●フリーダイヤル

2023年1月～8月	当期	前年同期比
発信数	234,284件	-65,232件
着信数	114,396件	-36,116件
着信率	48.7%	+9.3ポイント
平均通話時間	4分45秒	-4秒
総通話時間	9,013時間	-1,357時間

●オンラインチャット

2023年1月～8月	当期	前年同期比
訪問人数	85,138件	+20,167件
書込件数	21,731件	+6,081件
対応件数	9,058件	+3,492件
対応率	41.8%	5.6ポイント
平均対応時間	40分43秒	-2分34秒
対応時間	6224時間	+2,153時間

※フリーダイヤル＝NTTコミュニケーションズ トラフィック調査ツールより
オンラインチャット＝チャットシステムAI.BISのレポート解析結果
およびチャイルドラインデータベースより

●つぶやく

2023年1月～8月 合計	当期
投稿件数	14,294件

編集後記

◆このニュースレターを編集している最中に文部科学省からの小中高校生の自殺、不登校児童生徒が過去最多との発表がありました。私たちおとなができることについて考え続けること、身近な周りの声に耳を傾けることを心掛けたいと思います。(向井)

特定非営利活動法人(認定NPO)

チャイルドライン
支援センター

ニュースレター

News Letter

vol.

147

18さいまでの子どもがつながる
チャイルドライン。

巻頭言

1990年代、日本ではいじめによる子どもの自殺が社会問題になっていました。1994年の当時中学2年生だった大河内清輝さんの自死が大きく報道されたことで、それ以降いじめの問題は社会問題として大きく取り上げられるようになりました。そのような子どもの深刻な状況を背景に日本のチャイルドラインは広がってきました。最初に開設した「せたがやチャイルドライン」(東京都世田谷区、1998年～)は「いじめよ、とまれ!」というキャンペーンから誕生しました。また、チャイルドライン支援センター(2001年～)の牟田梯三初代代表(故人)が文部科学省の「子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議」(2006年11月～2007年6月)に委員として

いじめのない
世の中をめざしてあらゆる
暴力を
追放しよう

がうかがえます。私たちチャイルドラインに関わるおとなは、被害に遭っている子どもの気持ちはもちろん、加害する子どもがなぜいじめに走ってしまうのか、その時どんな気持ちになっているのか、どちらの側の子どもであっても、ありのままを受けとめ、声を聴くことを貫いて活動を続けています。

チャイルドラインに寄せられる子どもの声を分析すると、深刻な悩みとしては、いじめに関する相談は最多で推移してきました。それがここ数年は減少傾向にあります(近年については3頁図表参照)。しかし、いじめ対策が進んだから安心していいということではないと受けとめています。

「いじめ」という子ども同士の問題のように取り上げられますが、果たしてそうでしょうか。「いじめ」と言っていますが、内容は「暴力」です。精神的、肉体的、あるいは性的に相手を傷つけ、排除やコントロールをする行為であり、「犯罪」です。おとな同士の関係でもパワハラ、セクハラ、DVという暴力があり、おとなから

子どもに向けた体罰や虐待、セクシャルマイノリティ、外国籍、障害者への差別なども行われています。これはすべて人権侵害であり暴力行為です。その自覚が私たちおとなにあるのでしょうか？子どもの「いじめ」をやめさせるために子どもの状況を何とかしようとしても、おとなが見本を示さない限り「どの口が言う」ということなのではないかと私は感じています。社会から暴力をなくしていくことが、いじめを止めることにつながっていくのではないのでしょうか。

今こそ、いじめは子どもの問題ではなく社会全体の問題と捉える必要があります。社会からいじめをはじめとしたあらゆる暴力がなくなるようどう働きかけていったらよいのか、チャイルドラインは考え続けたいと思います。

チャイルドライン
支援センター 常務理事
高橋 弘恵



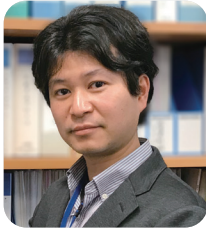
発行日：2023年10月25日
発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階 TEL: 03-5946-8500 FAX: 03-5946-8501
URL: <https://www.childline.or.jp/> E-mail: info@childline.or.jp



特集

「いじめ防止対策推進法」が施行されてから、2023年9月で10年経ちます。この間、各現場で議論や対策が行われてきました。果たして、いじめは減っているのでしょうか？ 課題は解決しているのでしょうか？ さらなる改善策は？ ここでは少しそれらについて考えてみたいと思います。

「いじめ防止対策推進法」施行から10年、いじめは減ったのか



NPO法人ストップいじめ！ナビ 副代表

須永 祐慈

認知件数と実際のいじめ発生

文部科学省の2022年発表の「いじめの認知件数」は、児童生徒合わせ過去最高の61万5千件と報告されています。「過去」という文字から「深刻化している？」という印象を抱く方もいると思いますが、例えば、国立教育政策研究所の子どもへの調査では「無視・陰口・仲間はずれ」の割合は、ここ20年近くは「急増も急減」もしていません。月に数回「仲間はずれ」などの被害の割合は、おおむね15%～20%です。文部科学省の数字は学校側が「認知」した件数で、実態とは齟齬があります。

いじめ防止対策推進法によって、文科省は「いじめの防止や対処、重大事態の際の環境の整備・体制の促進」を進めたといいますが、全国各地で「いじめ自殺報道」が起きているように、問題は残り続けています。具体的な課題として、学校現場のいじめ防止法の理解・浸透不足、学校の日常的チーム作りの不足、いじめ発生後の共有体制の課題、外部専門家との適切な関係構築の未整備、重大事態発生時の対応の停滞や、第三者委員会の組織設置のあり方、重大事態調査の方針のあり方、被害者や関係する人への適切なケア……あげたらキリがありません。

一方で、近年、いじめはやや減少しているかもしれない、という指摘もあります。これが、いじめ防止法の「効果」かは、今後の検証が必要になりますが、何も手を打ってこなかったわけではないことも認識したいところです。

学校現場の課題

一方「教員の働き方改革」は、いじめ防止対策にも大きく関係しています。教員の多忙は、子どもと向き合う時間が減少し、いじめに気づきにくい状況、対応の遅れを生みます。教員同士の情報や知恵の共有・スキルアップ時間の不足、教

員の労働ストレスも子どもへ影響を与えます。

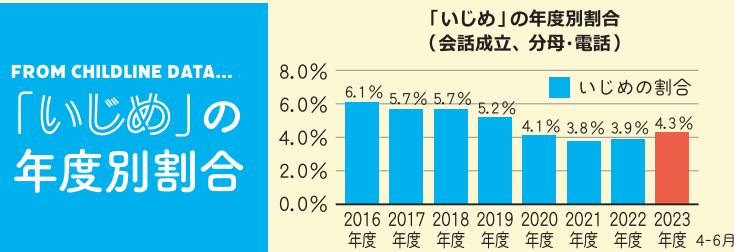
また、「保護者対応」も教員の悩みです。被害・加害者調整の中で、双方の保護者からの厳しい指摘や抗議への対応スキル不足、対応の遅れによる関係のこじれ、なども明らかになりつつあります。いじめは、その被害の深刻さから、責任追求に焦点が当てられがちです。何より「子ども自身」を中心に何ができるかという視点が欠かせませんが、対処がいつの間にか「大人の紛争」になっている現状の課題もあります。

できる方策

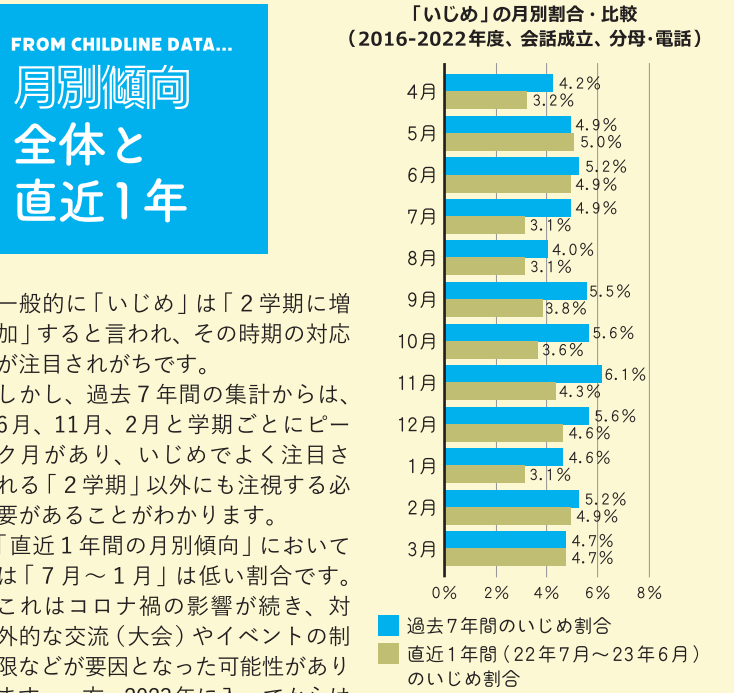
課題が多い分、できる方策もあります。まずは、起こっているいじめの状況の、何が問題・ネックなのかの論点整理と、いじめの改善を妨げる要因はどこか、学校・保護者の垣根を越え、一緒に改善策を講じていく必要があります。いじめに困った時は様々な解決策があることを共有すること、「頼れるつながり」を一つでも多く持つこと、法律など子どもたちを守る根拠を味方につけること、いじめを「撲滅」できなくても「減らす」ことはできること、教室などでの「環境」を良くすることなどです。これらの「ポジティブな要素」を多くの人と議論し・知恵を出し合い・共有し・発信していくことが必要です。

この10年、いじめ対策を進める輪がほんの少しとはいえ動き始めています。これを、もっと大きく・早く・強く拡大していく必要があります。

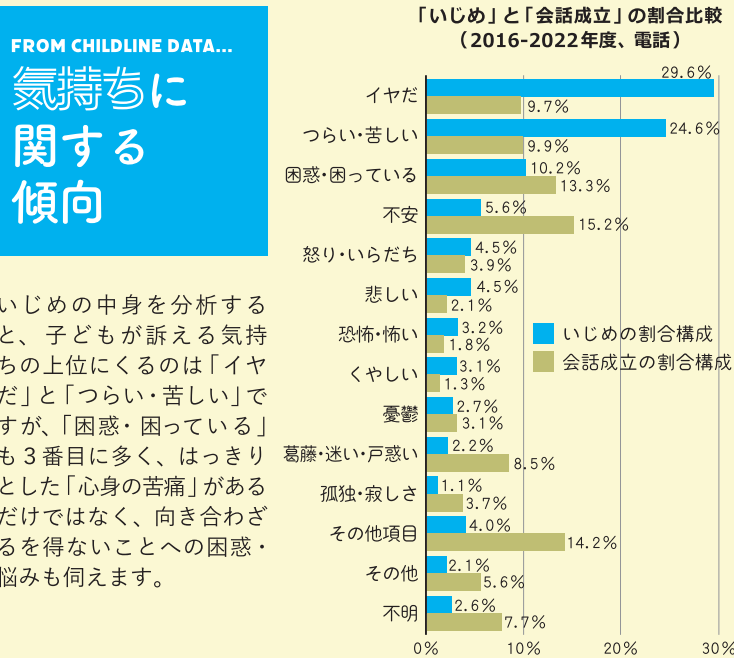
多くの人が言います。いじめは完全に無くすことはできない、と。でも、今よりもっと、少なくしたり傷を軽減したり、解決の可能性を広げることは、確実にできる。その思いを皆さんと共に共有して、課題解決をさらに前進させていきたいと思っています。



いじめに関する電話は2020年度以降に減少傾向あります。これは、コロナ禍における休校処置などの学校生活の変化の要因が強く影響していると考えられるので、通常期においていじめが減少しているかについては、今後の傾向を見ていく必要があります。



一般的に「いじめ」は「2学期に増加」すると言われ、その時期の対応が注目されがちです。しかし、過去7年間の集計からは、6月、11月、2月と学期ごとにピーク月があり、いじめでよく注目される「2学期」以外にも注視する必要があることがわかります。「直近1年間の月別傾向」においては「7月～1月」は低い割合です。これはコロナ禍の影響が続き、対外的な交流(大会)やイベントの制限などが要因となった可能性があります。一方、2023年に入ってからコロナ禍以前の平均レベルに近づいていると思われます。



いじめの中身を分析すると、子どもが訴える気持ちの上位にくるのは「イヤだ」と「つらい・苦しい」ですが、「困惑・困っている」も3番目に多く、はっきりとした「心身の苦痛」があるだけではなく、向き合わざるを得ないことへの困惑・悩みも伺えます。



チャイルドラインのデータにおいて、「いじめ」に関する悩みは、平均して「5%程度」あることがわかりました。年代によってやや減少傾向に見えますが、コロナ禍での環境の変化による変動も大きいので、通常に戻った今年度以降の傾向を注意深く見ていく必要があります。

また、文部科学省の調査との違いもあります。特に月別傾向や年齢割合、学校内、部活内、ネット上などの項目別に見た傾向にも注目していく必要があります。ほかに、他のテーマを含む会話成立全体と比べ、「いじめ」は心身の苦痛がより強く感じられていることも明らかになりました。

チャイルドラインデータは、受け手が感じた子どもの状況を集積したもので、「間接的データ」と位置付けられはしますが、他の機関の調査と比較すると、より「実際の声・傾向」が集積されている可能性があります。さらに、さまざまな視点や角度で、いじめテーマの分析を行なっていくほか、いじめ以外のテーマについても同様に分析を進めていく予定です。

子どもたちの声 ~2023年 第1四半期の事例より~

- ◆ 部活でいじめられていて誰にも相談できない。部活はやめたくない。
- ◆ 家にも学校にも居場所がない。学校ではいじめられているし、家では来ていないことばかり指摘される。
- ◆ ネット上で悪口を書かれた。聞いただと「私じゃない」と言われた。友達だと思っていたのにショックでどうしたらいいかわからない。
- ◆ 今の担任の先生は、「いじめを受けているとわかったら親に連絡する」って言ってたから嫌。いじめられっ子の気持ちも知らずにそんな事言ってほしくない。
- ◆ なにか問題がおこったら私のせいにされる。いじめっ子がいじめてくるって言ったら、みんないじめられる方の理由があるから、あなたが悪いって。家族に話してもあなたが悪いって。生きる意味ってなんだろう。

※ 個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。